



No. 2

University of Kentucky および
University of Virginia での
留学体験記

筑波大学眼科 准教授

福田 慎一

■はじめに

私は、2015年4月～2016年6月まで米国ケンタッキー州にありケンタッキー大学の眼科研究室で Postdoctoral Fellow として、2016年7月～2018年3月までバージニア州にあるバージニア大学で Postdoctoral Fellow として、2018年4月～2019年3月まで Assistant Professor として勤務しておりました。何か所も転々としているようにみえますが、受け入れ先の Jayakrishna Ambati 教授の研究室がケンタッキー大学からバージニア大学へ移転しただけで、実際は同じ研究室に所属しておりました。今回、本稿を執筆する機会をいただきましたので、米国での生活や引っ越し、研究施設、研究生活についても簡単にご紹介させていただきます。

■留学することについて

最近、留学を希望する日本人が少なくなったということをよく聞きます。国内トップクラスの研究室に行けばハイレベルの研究ができるのに、何故わざわざ海外留学をする必要があるのか？ そう聞かれたら、私は、迷わず世界を知るためと答えます。国内でトップクラスのラボを主宰している PI (Principal Investigator) は世界を知っていますが、それに続くべき若い次世代の研究者が世界を知っていないと決して世界と競い合っていくことはできません。海外に飛び込めば、それだけで肌で世

界を感じることができます。実際に私自身も、研究に限らず、考え方や新たな出会いも含め、日本という狭い世界にいるときは違った経験をさせていただくことができました。本稿が、少しでも海外を目指す若い研究者の助けとなればと思います。幼少時に父の仕事でニューヨークに2年間住んでいたことがありましたので、留学は昔からの夢でした。留学先は医局とは関係ないところを希望していたので、自分で CV (Curriculum Vitae) を送りました。最初は CV の書き方もわからなかったので苦労しました。留学を決心したきっかけは、Alcon Hida Memorial Award という眼科医のための海外留学のための5万ドルの奨学金をいただけることとなったからです。

■ケンタッキー大学およびバージニア大学について

ケンタッキー州レキシントンには、人口30万人ほどの都市で、郊外には馬の牧場が広がっており、北海道に似ています。ケンタッキーで有名なものはフライドチキンとケンタッキーダービー(競馬)です。また、ライムストーンという石灰を多く含む地層があるため、水にカルシウムが多く含まれており、バーボンの産地としても有名です。バーボン蒸溜所巡りは試飲もできてとても面白いです。お勧めはバーボンとチョコレートを同時に食べることです。近くにトヨタの工場があるため、人口の割に日